

(別紙1)

自己評価及び外部評価 結果

作成日 平成26年 7月25日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2771101181		
法人名	有限会社 清寿会		
事業所名	グループホーム正寿苑		
サービス種類	介護予防認知症対応型共同生活介護		
所在地	岸和田市稲葉町2552-2		
自己評価作成日	平成26年7月25日	評価結果市町村受理日	平成26年12月2日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を利用する場合	tp://www.kaigokensaku.jp/27/index.p
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797
訪問調査日	平成26年8月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周りは山や緑に囲まれて自然豊かな環境でお庭で四季が感じられるよう、春には桜や秋にはコスモス、お庭には野菜や花を植えて楽しんで頂いています。開設して12年、ベテラン職員も多く利用者様の個性を大切にしながらも日々の状態、状況を把握して早急な対応を心掛けています。穏やかに笑顔ある暮らしを毎月のお手紙で家族様に伝えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホーム正寿苑は岸和田市の山手地区の緑に囲まれた自然豊かな丘陵地に建っている。広い庭には、利用者が季節の移ろいを楽しむことができるように四季折々の草花や野菜を植えている。野菜は利用者が職員と一緒に収穫し、日々の食材に使用している。利用者の高齢化が進みADLの低下が見受けられる中で、家族の協力を得て出かけ易い場所や参加し易い行事などを探してできるだけ外出ができるように支援している。家族や知り合いが訪問時に利用者の日常の様子を知ることが出来るように 職員が作成した利用者別の写真アルバムを玄関に置いたり、毎月家族に「苑便り」や個人別の「近況報告便り」を郵送し利用者の日常生活の様子が分かるように努めている。。

自己評価	外部評価	項目	自己評価 A棟	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念は各棟の玄関、事務所に掲げている。各棟で理念を作成している	法人の理念として「ご利用者の人格を敬愛をもって接し、希望とゆとりのある生活を目標とする」があり、ユニットごとに職員が作成した理念もある。理念は玄関や事務所に掲示し、職員の共有を図り、日々の援助の中でその実践に取り組んでいる。	理念を基にした月間目標や介護目標を作成する予定となっており、その実践につなげるさらなる努力を期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣に住宅が少なく日常的とまではいかないが、行事の予定をお聞きして溝掃除や公民館まつりなどに参加させてもらっている。	町会に入会している。職員は町会の溝掃除に参加している。利用者は職員と共に公民館祭りや盆踊りに参加している。職員は近隣で行われる市主催の「キャラバンメイト養成講座研修」の講師として地域に協力している。地域の人が事業所に野菜や果物を持って訪ずれることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所独自では行っていないが地域住民の方への認知症についての相談や勉強会や講師派遣などの協力ができるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度定期的に行い利用状況の報告行事の報告をしている。意見交換から出てくる内容について情報やアドバイスを頂きサービスの向上に取り組んでいる。	2か月に1回開催している。地域の元町会役員・介護保険課職員・地域包括支援センター職員・管理者・職員などが出席している。会議では利用状況の報告、行事予定・家族会の報告や避難訓練等の話し合いをし、アドバイスや協力を仰いでいる。運営推進会議の議事録をファイルして事務所に置いている。	議事録をミーティング時に報告したり、回覧印を押す欄を作成するなどして職員への周知が望まれる。また、家族に運営推進会議への参加を呼びかけることが望まれる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	岸和田市事業者連絡会を通じて情報交換を行っている。実情については速やかに報告して助言を頂いたりしている。	市の事業者連絡会に加入し、管理者がその役員を引き受けている。月に1回の役員会議には地域包括支援センター職員が、3か月に1回の連絡会の運営会議には市職員が参加していて助言をもらっている。	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関の施錠に関しては夜間帯以外は内側からは開くようにしている。身体拘束はケアは苑全体で理解し、一切行っていない。</p>	<p>玄関は夜間を除き施錠をしていない。職員は「身体拘束をしないケア」の外部研修を受けている。管理者やリーダーは日々の援助の中で気が付いたことがあれば、その都度職員に説明や指導している。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待とはどういうものなのか理解しスタッフが共有の視点をもって注意、防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>数名、権利擁護や成年後見人制度を利用されている方がいる。週に一度の面会があり身近で学ぶ機会がある。必要があれば包括等にも相談している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前や契約時に重要事項について説明する際質問や疑問がないか確認した上で契約をしている。入苑後も気軽に聞いて頂けるように伝えている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>常時利用者や家族様は面会時には職員やケアマネ、管理者とお話する機会を持つよう心掛けている。意見箱の設置や介護相談員が来苑された際は利用者の要望などを聞いて管理者に報告して頂いている。</p>	<p>意見箱を設置している。家族とは面会時や利用料の支払い時に、遠方の家族には電話で意見を聞く機会を持つように心がけている。また、日常の援助の中で職員が利用者の要望は聞き取るようにしている。定期的に来苑する介護相談員が利用者の要望などを聞き取り事業所に報告している。それらの意見は運営に反映するように努めている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>個別に面談をする機会を設けたりミーティングなどで出た意見などは反映するようにしている。</p>	<p>週に1回スタッフカンファレンス会議を、年1回は個別面談を設け管理者が職員の意見や提案を聞く機会を設けている。物品購入の要望などはすぐに検討し実行に移している。</p>	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>勤務シフトは管理者が行い、個別に要望に応じている。職員の個性に応じてやりがいを持てるよう職場環境の整備に努めている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>実践者研修や外部研修が受講するよう勧めると共に資格が取得しやすいよう勤務体制の整備をしている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>岸和田市介護保険事業者連絡会の運営委員やキャラバンメイトなどを通じて普段から活発に交流がある。GH協会、GH協議会のも入会し、岸和田市のGHの情報交換会なども行っている。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>利用開始前に苑に来て頂き、一緒の時間を過ごしていただくようにしている。又体験で2～3日泊まって頂き、いろいろなお話をしながら本人の不安が軽減できるよう配慮している。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービス利用される前に本人や家族の今までの暮らしなどの生活歴や習慣や要望をお聞きしたうえで本人が安心して暮らせるよう努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>見学や相談の時点で困っている事や現在の状態をお聞きして当GHだけではなく他サービスの情報提供して本人や家族が安心できるよう対応している。</p>		

18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活や会話の中から本人が出来る、できない事を把握し共支えあって生活している関係づくりに努めている。		
19	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、「本人の状況報告」として写真と共に送っている。家族会や来苑された際にはスタッフも一緒にお話するなどの関係づくりをしている。		
20	8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様に協力して頂き、馴染みの場所への外出や季節のハガキを出すなど交流ができるよう支援している	家族の協力を得て、自宅に帰ったり墓参りに出かけたりしている。職員が協力して年賀状や暑中見舞いの葉書を親戚や知人に出し交流が継続できるように支援している。また、友人や近隣の住民が事業所を訪問している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の状態を把握したうえで場面によって利用者同士が良い関係状態になれるよう支援に努めている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も来苑されてご本人の状況を報告されたり、他施設入所後も面会に行ってお会いさせて頂くこともある		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9 ○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入苑当初、普段（サービス担当者会議等）からの本人や家族から希望や意向をお聞きしている。何気ない会話から本人の意向や思いに気づくよう努めている。	利用者担当制を取り入れていて、職員は担当する利用者の日常の援助の中でのなにげない会話からその方の意向や希望を聞き取るように努めている。それらを支援経過表に記入し、全職員が情報を共有できるようにしている。	
----	--	---	---	--

24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>入苑前から本人との会話や家族様や直接関わっている方達からお聞きしたり、本人のお話の中でお聞きした事等をセンター方式などに記入してスタッフ全員が共有できるよう努めている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>本人ができる事、できない事の把握に努めてできる事を自信を持ってできるよう支援している。</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>サービス担当者会議を本人、家族様に出席して頂き本人の気持ちや悩み、希望をお聞きしてケアを検討している。日々の生活においてコミュニケーションを図りながら様々な変化をアプローチとして感じながらプランに活かすよう努めている。</p>	<p>介護支援専門員は3か月に1回、また利用者の状態に変化があった時には随時職員が記入した支援経過表の意向や意見を参考に原案を作成している。計画作成時には、サービス担当者会議を開催し、家族の方が必ず出席できるように日程調整を行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>カンファレンスを頻回に行いスタッフ達より気づきや検討点について出し合っている申し送り、連絡ノート、記録に記入し必要時センター方式のシートも活用し情報が共有できるようモニタリングしている</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人、家族の状況や生活歴をお聞きしたうえでその時に必要とされるニーズに対して出来る限り本人、家族が希望される対応を心がけている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>信仰されている宗教の方や介護相談員の方が来苑されてお話しされたり、近所の方の畑で収穫のお手伝いなど楽しむことができるよう支援している。</p>		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	入苑前に主治医から情報を得て家族様と 相談しながら本人に状態に応じて適切な 医療関係と連携している。	利用者や家族が希望する医療機関での受診 が出来るように支援している。通院には職 員が同行している。内科医が月2回、精神 科医が2週間に1回、歯科医が週1回の訪 問診療がある。診察内容は「往診報告書」 「通院報告書」にて家族に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるよう支援し ている	訪問されている看護師に日常の生活や体 調を報告してDr不在時は相談にのって 頂いて適切な受診ができるよう支援して いる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。又は、そうした場合に備え て病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合は本人の情報、必要なも のの準備をしDr、ケースワーカー、家 族と連携して早期退院に向けて支援して いる。空き室情報など通じて情報交換を 行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	状態に応じて家族の意向や状況に応じて 重度化、について話し合っている。常時 の医療行為が必要な場合については契約 時に説明し同意を得ている。	入居時に重度化や終末期に向けた方針につ いて、家族等に説明し同意を得ている。利 用者が重度化したり、終末期を迎えた際 には、家族と協議し意向に沿えるように取 組んでいる。	利用者や家族はもとより職員も明 確に理解できるように、また職員 が重度化や終末期に向けた方針を 共有できるように文書化するこ とが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全 ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定 期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し常に初期対応につ いては指示、伝達している。実践の中で 身についている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問 わず利用者が避難できる方法を全職員が身 につけるとともに、地域との協力体制を築 いている	避難訓練時には救急時の搬送方法をの勉 強会や近隣の方々と連絡方法など協力体 制を整えている。	スプリンクラー・緊急通報器を設置してい る。夜間想定を含めた年2回の消防訓練 には地域住民も参加している。また、緊 急連絡網に地域住民の連絡先を記載する など、緊急事態に備えた近隣住民との協 力体制の構築に取り組んでいる。長期保 存できる食材や飲料水を備蓄している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>一人ひとりに応じた言葉かけを心がけている。本人の伝えたい事を理解できるようゆっくり聞くよう対応している。</p>	<p>個人記録などの書類は鍵の掛かる書庫に保管している。職員は交代で外部研修にも参加している。利用者の尊厳やプライバシー尊重が出来るように、管理者は日頃から指導を行っている。職員は交代で外部研修を受けて報告書を作成している。</p>	<p>外部研修のフィードバックとして内部研修を行うことで、全職員の理解や周知に繋げる取り組みが望まれる。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>本人に寄り添い、希望や思いに気づけるようにしている。希望があれば自己決定できるよう促してサポートできるよう努めている。</p>	/	/
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>生活の大まかな流れはあるが個々のペースや体調を考慮して楽しく、穏やかに過ごしていただけるように支援している。</p>	/	/
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>起床時は整容や服装を整えて、入浴準備の際や外出時など本人の好みの服を自身で頂くなど本人の希望も取り入れるよう支援している。</p>	/	/
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>苑の野菜の収穫や旬の野菜を食べていただけよう、盛り付けなども食欲が出る様工夫している。好みのメニューを取り入れて配膳や片づけなど手伝って頂きながら今日はどうだったか感想を聞く様になっている。</p>	<p>事業所で栽培した野菜を利用者と一緒に収穫している。皮むきや下膳など出来る能力を活かせる支援に取り組んでいる。利用者と職員と一緒に会話を楽しみながら食事をしている。食材は基本的に業者から購入しているが、不足の食材があれば、利用者と一緒に近くの店に出掛け、食材を選び、購入している。外食やバイキング形式の食事を取り入れている。</p>	

41	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>個別に食事量や水分量を記入して時間を決めて補水を行っている。寝る前、起床時、入用後はこまめに摂取できるよう、一人ひとりのペースに合わせている。既往歴に応じて食事量は考慮している。</p>		
42	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>とり</p>	<p>出来る方は見守りし、困難な方は介助している。義歯を装着されている方は毎日洗浄し清潔にしている。必要な方は往診歯科を利用し口腔ケアをして頂いている。</p>		
43	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個々の排泄パターンを把握し状態に応じて声かけや誘導、介助を行っている。</p>	<p>排泄チェック表などから一人ひとりの排泄パターンを把握している。さらに、利用者の仕草を理解しさりげなくトイレ誘導を行っている。利用者が不快な思いをしないように声掛けには十分配慮している。夜間ポータブルトイレを使用する利用者も安全に使用できるように配慮している。</p>	
44	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分や繊維の豊富な食べ物や乳製品を提供毎朝の歩行運動や体操で腸の働きが良くなるよう心掛けている。主治医の指示による服薬で予防している。</p>		
45	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>本人の希望により早く入りたい方やゆっくりと楽しみたい方、温度の好みなど個人のペースに合わせている。日によって入浴剤の香りを変えて楽しんで頂いている。</p>	<p>週3回午後の入浴時間を設定しているが、希望があればいつでも入浴できる。利用者の好みに応じて湯の温度を調整している。車いすの利用者が快適に入浴できるようにリフト浴を導入している。入浴後に好みの化粧水を使う利用者もあり、利用者ごとの入浴習慣を大切に支援している。</p>	
46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>時期に応じて温度の調節、布団干しやシーを清潔にして照明や時間など一人ひとりの生活リズムにあわせて休んで頂いている。</p>		

47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個別に服薬している薬の一覧表を作成しスタッフ間で情報の共有をしている。服薬による変化については受診前にカンファレンス会議を開催し確認して主治医に報告している。服薬が困難な方には個別にいろんな対応を工夫している。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>日常生活の中で一人ひとりに役割を持っていただいている。買い物や外食、季節の行事の準備や参加して頂いている。カラオケや季節の壁面作りなどで気分転換していただいている。</p>		
49	18 <p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>初詣や戎さんの時など近くの神社へ行き地域の方と接したりお弁当を作って公園でお花を見て楽しんで頂いている。家族と自由に外出できるよう支援している。</p>	<p>食材の買い出しや洋服の購入など外出を楽しんでいる。家族の協力を得て、自宅や墓参りに行ったり、リサイクル公園へ昼食のお弁当を持って出かけたりしている。利用者にとって適切な環境が整った外出先を選び、でかけられるよう支援している。</p>	
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>必要に応じてお預かりしているが入苑する際家族と相談し所持して頂く事で安心されてる方は持って頂いている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望があればいつでも使用して頂いている。友人からの電話の取次ぎや手紙やハガキはスタッフと一緒に読んで喜びを共感できるよう支援している。</p>		
52	19 <p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングには季節を感じられるよう飾り付けをして利用者の日々の写真を展示している。掃除や換気を心かけてリビングの窓からは季節の花や樹木を楽しんで頂ける様に工夫している。</p>	<p>居間兼食堂にはソファー・テレビを設置している。壁には利用者の写真を飾り、日常の暮らしぶりが伺える。また、利用者が作成した季節を感じる事が出来る作品を展示している。台所から調理する音や洗い物の音が聞こえ、家庭的な雰囲気である。居間から通じている苑庭は広く開放的である。</p>	

53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テーブル席についてはいろんな生活習慣や利用者同士の関係を考慮してその時に応じて設定しているがテレビ前のソファなどで雑談やスタッフと好きなように過ごされている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人が在宅時に使用されていた布団やダンス写真や衣類を持って来て頂いている。スタッフと一緒に掃除やダンスの整理や衣替えを定期的に行っている。</p>	<p>利用者の生活習慣や動作を考慮し家具を配置している。利用者が使い慣れたブラウン管TVやダンス・仏壇・家族の写真を飾っている。職員が個々の利用者にあった室温調整を行っている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各居室は安全な配置を考慮し一人ひとりとコミュニケーションをとりできる事のは安全に配慮しながら本人のペースに合わせて自立した生活が送れるよう工夫している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけてい る	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価 B棟	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念は各棟の玄関、事務所に掲げている。各棟で理念を作成している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣に住宅が少なく日常的とまではいかないが、行事の予定をお聞きして溝掃除や公民館まつりなどに参加させて頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所独自では行っていないが地域住民の方への認知症についての相談や勉強会や講師派遣などの協力ができるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度定期的に行い利用状況の報告行事の報告をしている。意見交換から出てくる内容について情報やアドバイスを頂きサービスの向上に取り組んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	岸和田市事業者連絡会を通じて情報交換を行っている。実情については速やかに報告して助言して頂いたりしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関しては夜間帯以外は内側からは開くようにしている。身体拘束はケアは苑全体で理解し、一切行っていない。		

7	<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待とはどういうものなのか理解しスタッフが共有の視点をもって注意、防止に努めている。</p>		
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>数名、権利擁護や成年後見人制度を利用されている方がいる。週に一度の面会があり身近で学ぶ機会がある。必要があれば包括等にも相談している。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前や契約時に重要事項について説明する際質問や疑問がないか確認した上で契約をしている。入苑後も気軽に聞いて頂けるように伝えている。</p>		
10	6 <p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>常時利用者や家族様は面会時には職員やケアマネ、管理者とお話する機会を持つよう心掛けている。意見箱の設置や介護相談員が来苑された際は利用者の要望などを聞いて管理者に報告して頂いている。</p>		
11	7 <p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>個別に面談をする機会を設けたりミーティングなどで出た意見などは反映するようにしている。</p>		
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>勤務シフトは管理者が行い、個別に要望に応じている。職員の個性に応じてやりがいがあるよう職場環境の整備に努めている。</p>		

13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>実践者研修や外部研修が受講するよう勧めると共に資格が取得しやすいよう勤務体制の整備をしている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>岸和田市介護保険事業者連絡会の運営委員やキャラバンメイトなどを通じて普段から活発に交流がある。GH協会、GH協議会にも入会し、岸和田市のGHの情報交換会なども行っている。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>利用開始前に苑に来て頂き、一緒の時間を過ごしていただくようにしている。又体験で2～3日泊まって頂き、いろんなお話をしながら本人の不安が軽減できるよう配慮している。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービス利用される前に本人や家族の今までの暮らしなどの生活歴や習慣や要望をお聞きしたうえで本人が安心して暮らせるよう努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>見学や相談の時点で困っている事や現在の状態をお聞きして当GHだけではなく他サービスの情報提供して本人や家族が安心できるよう対応している。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>日々の生活や会話の中から本人が出来る、できない事を把握し共支えあって生活している関係づくりに努めている。</p>		

19	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、「本人の状況報告」として写真と共に送っている。家族会や来苑された際にはスタッフも一緒にお話するなどの関係づくりをしている。		
20	8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様に協力して頂き、馴染みの場所への外出や季節のハガキを出すなど交流ができるよう支援している		
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の状態を把握したうえで場面によって利用者同士が良い関係状態になれるよう支援に努めている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も来苑されてご本人の状況を報告されたり、他施設入所後も面会に行ってお会いさせて頂くこともある		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9 ○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入苑当初、普段（サービス担当者会議等）からの本人や家族から希望や意向をお聞きしている。何気ない会話から本人の意向や思いに気づくよう努めている。		
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入苑前から本人との会話や家族様や直接関わっている方達からお聞きしたり、本人のお話の中でお聞きした事等をセンター方式などに記入してスタッフ全員が共有できるよう努めている。		

25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人ができる事、できない事の把握に努めてできる事を自信を持ってできるよう支援している。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を本人、家族様に出席して頂き本人の気持ちや悩み、希望をお聞きしてケアを検討している。日々の生活においてコミュニケーションを図りながら様々な変化をアプローチとして感じながらプランに活かすよう努めている。		
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスを頻回に行いスタッフ達より気づきや検討点について出し合っている申し送り、連絡ノート、記録に記入し必要時センター方式のシートも活用し情報が共有できるようモニタリングしている		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況や生活歴をお聞きしたうえでその時に必要とされるニーズに対して出来る限り本人、家族が希望される対応を心がけている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	信仰されている宗教の方や介護相談員の方が来苑されてお話しされたり、近所の方の畑で収穫のお手伝いなど楽しむことができるよう支援している。		
30	11 ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入苑前に主治医から情報を得て家族様と相談しながら本人に状態に応じて適切な医療関係と連携している。		

31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	訪問されている看護師に日常の生活や体調を報告してDr不在時は相談にのって頂いて適切な受診ができるよう支援している。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合は本人の情報、必要なものの準備をしDr、ケースワーカー、家族と連携して早期退院に向けて支援している。空き室情報など通じて情報交換を行っている。		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に応じて家族の意向や状況に応じて重度化、について話し合っている。常時の医療行為が必要な場合については契約時に説明し同意を得ている。		
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し常に初期対応については指示、伝達している。実践の中で身につけている。		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練時には救急時の搬送方法をの勉強会や近隣の方々と連絡方法など協力体制を整えている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14 ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の訴えなどには別の場所に移動して寄り添い傾聴して対応するよう、何気なくフォローできる対応を心かけている。		
----	---	---	--	--

37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>利用者の思いや希望を話しやすいような会話に心がけて困難な場合はいくつかの選択肢から選んでいただけるようにしている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>体調や気分を考慮したうえで一人ひとりのペースを大切にしながら見守りや声かけをしている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>髭剃りや整髪、訪問カットを利用しておしゃれが楽しめるようお化粧品やマニキュア、又同じ服装が重ならないように気を付けている</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>個々の好みを取り入れて献立や盛り付けに工夫している。苑の畑で収穫した野菜の下処理などお手伝いして頂いたりして一緒に食事を楽しんでいる。旬の野菜を取り入れて季節を感じて頂けるようにしている。</p>		
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>個々の水分、食事量を把握したうえで無理のないよう随時、提供や言葉かけをしている。一人ひとりの状態に応じてミキサー、刻み、トロミをつけている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、口腔ケアをして頂いている。個々に応じて義歯の洗浄や磨き足りないところなどは介助している。週1回の歯科往診時に状態変化を相談し必要な時は診て頂いている。</p>		

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し声かけや誘導しその方の力に応じて使用するパッドを使い分けたり、介助するようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録する事で個々の状態を把握して牛乳や繊維のある食べ物を摂取していただけるよう工夫し朝夕の体操や腹部のマッサージをして便秘予防している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日や時間はおおよそ決めていますが温度や順番や時間など好みをお聞きしている。リラックスして頂ける様会話を楽しみながら入浴されるよう心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	使い慣れた寝具などを保清し室温や照明を個々に応じて調整している。日中は日光を浴びて頂き入床前は穏やかに過ごしていただきその方のペースや習慣に応じて入床のタイミングで対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されているお薬の用法、副作用について理解し把握できるようにしている。変薬や増減薬時症状の変化に気を付けて常に報告して指示を仰いでいる。服薬確認の为一覧表を貼付している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に役割があり日めくりやビニール袋たたみ、洗濯ハンガーかけやはずし、雑巾縫いやレクレーションやカラオケなど楽しんで頂いている。お誕生などには個別で外食などスタッフと会話を楽しみながら、一人ひとりに応じて工夫している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節を感じて頂くようお花を見にお弁当を持って外出に行ったり、家族様の協力でお出外の際は体調や薬などについて説明している。地域には盆踊りや初詣、公民館まつりなどに参加。昼食を兼ねて外食にも出かけている。		

50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>普段は所持していないが、不安な時や希望があれば、お渡しして安心して頂いている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人の意向があれば自由に使って頂いている。年賀状など自筆で書いて頂いている方もいる。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングや廊下に季節ごとのお花や壁面利用者の写真を展示して明るい空間を作るよう工夫している。</p>		
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下などにベンチを設置して外が見れるようにしている。ソファで横になられたりと自由に過ごして頂いている。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族様と相談して使い慣れた家具や好みの物の中で居心地よく、安全に過ごしていただけるよう工夫している。</p>		
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレの目印など高さや大きさに配慮したり時計は大きく見やすい物を設置したり、居室ドア前にもわかりやすく写真や名前を貼って工夫している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけてい る	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない